

## モビリティの スマート化対応

オリコンサルと東大が  
社会連携研究部門設置

東京大学生産技術研究所とオリエンタルコンサルタ  
ンツは16日、同研究所に  
「都市街路スマート・モビ  
リティ学」社会連携研究部  
門を設置した。写真（報道  
発表資料から）。大口敬特  
任教授らが担当する。両者  
の英知を結集し、モビリテ  
ィのスマート化に対応した  
新たな都市内街路交通の計  
画・マネジメントに関わる  
基礎的な理論と技術の体系



化を目指す。モビリティデ  
ィバイド（自動車などの保

有や運転の可否による移動  
格差）のない社会の実現に  
貢献していく。

既存の都市内交通手段に  
加えて、電動キックボード  
や自動運転技術の導入も考  
慮して研究する。都市内街  
路に新たな交通マネジメント  
トを実装するために必要な  
技術などを体系化してい  
く。都市内街路の「リ・デ  
ザイン」や、スマート・モ  
ビリティの実現手法を解明  
するとしている。

設置期間は2028年3  
月31日まで。研究活動費の  
総額は約1億1000万円  
を見込む。